



学園だより

第27期生徒会執行部のみなさん 2012.1.24.

ハイライト:

- 第27期生徒会がスタートしました。
- 議会の中、センター試験が行われました。
- WYSH 今年も取り組んでいます。

新年のご挨拶

理事長 成瀬輝一

明けましておめでとーございます。

年始は4日から中学の入学試験、そして合格発表。10日には三学期の始業式とあわただしく過ぎました。いよいよ14、15日センター試験です。出発日の早朝、同窓会から贈られた「岩田魂」の横断幕の前で、高校2年生の出陣イベントのエールや水行等、学園全体で出発式が行われました。この試験に立ち向かう95名の生徒さんたちは、みな明るく頼もしいです。この若い人たちが将来、日本を支えるのだと実感を致しました。

昨年の東日本大震災、その復興に取り組んだ、若いボランティアたちの活躍も大変評価されています。未曾有の被害は若い人たちの心を揺さぶり、日本の将来は自分に懸かっていると、目覚めさせたのではありませんか。それは単に労働力ということではなく、被災者に対する暖かい対応、優しい心遣いにあります。日ごろの教育の蓄積が、一旦緩急有れば、きちんと発揮される証しでありましょう。まさに岩田の教育方針「社会に有為な人材の育成」に重なりま

す。逞しいクスノキに囲まれ、護られた学園で、この教育をゆつくりと着実に進めて参ります。冬のキャンパスにもいずれ春が訪れ、クスノキが芽吹き、美しい若葉でむせ返ります。教育は時間がかかります。岩田のモットー「ゆつくり急げ」の実践であります。

本年もよろしくお願い致します。



新年のご挨拶 理事長 成瀬輝一	1
第27期生徒会の紹介 24年度岩田中高入試について	2
進路指導部より 進路指導主任 三浦準一	3
特活より～部活の報告 特活主任 野村哲也	4
保健室より～WYSH 他 養護教諭 野村めぐみ	5
カウンセリングルームより スクールカウンセラー 江藤行大	6
生徒指導部より 生徒指導主任 楠田克彦	7
寄付金募集のお知らせ	8



生徒会発足の紹介

1月10日(火)、第27期岩田学園生徒会が発足しました。

昨年11月16日(水)に生徒会長選挙で、高1中城毅彦さんが生徒会長に選出されました。その後組閣作業に着手し、まずは残りの執行部4名を選出、その後各専門委員会の委員長と副委員長の計12名が決定しました。新生徒会は2学期終業式にて全校生徒に紹介と挨拶を行い、3学期に校長室での認証式にて正式に任命されました。さっそく生徒会研修として高2の前生徒会メンバーと仕事の引き継ぎを行います。

生徒会の仕事ははじめとして、「書き損じハガキの回収」を現在行っています。ご協力よろしくお願ひいたします。

前生徒会のみなさん、本当にお疲れ様でした。1人1人が役割を理解し、しつ

生徒会顧問 河野智治/姫野眞次

かり果たす素晴らしい生徒会でした。全校生徒を引っ張ってまとめあげてくれたことに感謝します。

第26期生徒会長 南 龍太さん

この一年間を通じて様々な経験をしました。その中で一番学んだことは感謝する気持ちです。何をするにしても一人では何もできませんが、周りには生徒会の仲間、岩田生、諸先生方そして保護者の方々が支えてくれました。そのお陰でどんな活動も円滑に取り組むことができました。本当にありがとうございました。

第27期生徒会長 中城 毅彦さん

この度新しく生徒会長に就任した中城毅彦です。これまでの先輩が作り上げてきた伝統ある岩田学園をよりよく変えていくために生徒会長になろうと思いまし

た。そして、日頃お世話になっている地域の方々には何か恩返しといった活動をしたいと考えています。また、一年の中で一番の醍醐味ともいえる学園祭を全校生徒が満足できるように頑張っていきます。いろいろとご迷惑をかけると思いますが、これから一年よろしくお願ひします。

生徒会長	中城毅彦	
副会長	古手川愛美	小手川太郎
庶務	高田三四郎	神矢真由
体育委員会	正 芝田一樹	副 牧野夏佳
美化委員会	正 岡田剣士朗	副 竹林穂香
広報委員会	正 清水成美	副 立川聡士
図書委員会	正 望月雅基	副 口石 恵
文化委員会	正 角田賢太郎	副 楠元あい
空き缶委員会	正 佐藤愛理	副 佐藤裕輔

平成24年度岩田中高入試について 事務局長 工藤紀次

平成24年度入学試験は、岩田中学校で135名の募集定員で、また、岩田高等学校で30名の定員で募集いたしました。岩田中学校の志願者数(推薦+一般)は273名で、合格者数が167名でした。少子化や景気低迷の中、志願者数は昨年度より9名の減少に止まり、中学教育を大切にしようという思いを感じました。志願者は着実に力を付けており、一般入試では合格最低点を5年連続して上昇させる事ができました。また、岩田高等学校の合格者数は、推薦入試を済ませた時点で10名となっております。高等学校の一般入試は、2月5日となっております。最終入学者が決まるのは2月14日以降となります。

岩田中学校の推薦入試では、事前に国語と算数の適性検査を実施しました。国語・算数共に前年度より難化したようにあり、得点が伸び悩みました。適性検査の受検者数は若干減少したにもかかわらず、昨年並みの不合格者数を出し、かなり厳しい線引きとなりました。

高校の推薦入試の英語では、読解・英

作問題に苦勞していたようにあり、昨年度よりかなり低い得点となりました。年々個性豊かで意欲の高い受験生が、出願しているように感じられます。今年は帰国子女入試も実施され、シンガポールと釜山の日本人学校からの受験者がありました。APUコースに相応しく、入試にも国際性が出てき始めました。

高校の一般入試の出願期間は、1月23日～28日となっております。多くの志願者があることを願っております。

中学校の入学手続者は82名で、昨年の89名を下回りました。進学する選択肢が増えたことによる分散化が定着しつつあるのかも知れません。来年度以降も岩田中学校の推薦入試・一般入試は、共に“やや難化”の傾向が続くと思われま

す。入試終了後に行った受験生の志願動向アンケート調査では、大分大学附属中学校や県立豊府中学校への進学希望者が昨年以上に増えておりました。景気の不透明感や消費税の増税予測、高等学校の授業料無償化等が、私立学校への進学を敬

遠させたのかもしれませんが。

今後も県内外を始め海外日本人学校での広報活動を充実させ、小学生・中学生の参加できる行事を用意し、“岩田中学校やAPUコースを体験する”という取り組みを続けていき、更なる入学者増へ繋げたいと考えております。また、岩田学園では男女の生徒寮を持っており、これは他校にない特徴的な施設であります。寮教育を再度見直してもらい取り組みも始めたいと考えています。

【平成24年度中学入試結果】

中学校志願者数

志願者数	273名
合格者数	167名

中学合格者平均点

国語	71.9点
算数	69.1点
理科	42.7点
社会	38.5点



進路指導部より

進路指導主任 三浦準一

●2012年センター試験

1月14、15日の2日間にわたって大学入試センター試験が行われました。全国の志願者総数は555,537人で、一昨年から昨年度は5,616人増加しましたが今年度は昨年からは3,447人の減少になりました。本校からも95名の生徒が、今回の会場である大分大学でセンター試験に挑みました。14日の早朝、全員が遅刻することなくそろい、慣例となっている高校2年生を中心とした在校生・保護者・同窓会の方々・教職員による盛大な見送りを受け、24回生は大分大学に向かいました。到着すると、まず学年の先生による最後の諸注意を受けてそれぞれの会場の下見に向いました。いよいよ本番を迎えた緊張の中にも、“最後の最後までやり抜くぞ!”という強い意思をみなぎらせ、科目によっては試験会場に向かう者、バスの中で自分の出番まで自習に励む者とわかれ、各自が真剣に取り組んでいました。センター試験当日は例年に比べると気温が高く天気になると暖かく感じましたが、昼過ぎからくもりの天気とな

り、寒さが次第に増してきました。準備していたあたたかいお茶が役にたったようです。2日目も特にトラブルもなく受験に向かっていました。2日間持ち前の明るさを発揮して元気にセンター試験に取り組める24回生に、彼等はやはり「何か持っている?」と思わせるような2日間でした。

昨年のセンター試験では大幅に平均点がアップし、今年の結果が目立っていました。大学入試センターが発表した20日現在の中間集計結果によると、本校の生徒が多く受験する12の試験中、地理、現代社会、リスニングは前年比でダウンしましたが、他の科目は全てアップしました。中でも、化学の前年比+9.7点を筆頭に、日本史の5.1点などアップが各科目で目立ちました。河合塾の自己採点集計結果によると、現役生は文系(5教科7科目 900点満点)で-0.8点、理系(5教科7科目 900点満点)で+4.7点となっており、昨年なみとみることができます。このような状況から各予備校とも、昨年度強気にでた受験生は、

今年も強気になり、難関大学・学部では激戦になるのではないかと予想しています。

先日の自己採点の当日にも話をしたことですが、センター試験の結果だけで、受験のすべてが決まるわけではありません。国公立大の二次試験や私立大学の個別試験までの過ごし方で、受験の結果は大きく変わってきます。特に今回のようにセンター試験の点数が、予想よりよくでたために油断したり、点が取れずに勝手に自分の力を過小評価化するのではなく、様々な情報を冷静に分析して、受験校の合格を目指して欲しいと思います。もちろん、このような分析は学年団をはじめ学校をあげて全力でサポートしていきますのでいつでもご連絡ください。受験生諸君は気持ちを切り替えて、来るべき私大入試や国公立大の二次試験に向けて全身全霊を注いで勉強に取り組んで下さい。24回生の健闘を期待しています。

高3(24回生)センター試験壮行会を行う。

1月13日(金)の3限に「センター試験壮行式」が大講義室で行われました。

最初に成瀬校長から「人生の中での何回かの勝負、あわてず冷静に頑張ってくれ。」と激励の言葉をいただきました。その後、生徒代表6年1組上山泰誉君と6年3組中村雄亮君の「6年間の集大成、最後まで粘り、山を登り切ります。」と力強い誓いの言葉、続いて三浦進路指導主任より、試験当日の確認事項や心構え「夢をつかむための第一歩。上のステージに向けて頑張ろう。」と応援のメッセージをいただきました。

式の終了後には、学年より試験当日の確認と心構えを再度伝えて式を締めくくり、本年も卒業生からの差し入れ「kitkat(きっと勝つと)」を一人一人に配り全員の気持ちを高めてセンター試験に向かいました。

初日となる1月14日(土)は、早朝より在校生・職員・保護者など盛大な見送りの中、高2生徒会長を中心に有志が多数参加して恒例の水行が行われました。バスの中から後輩たちの熱い気持ちや声援を胸に刻み、試験会場の大学へと出発しました。

又、2日目は、寮生の6年4組佐橋・須

田・村上君が水行を行い気合いを送り、他の寮生も声援を送ってくれました。

センター試験の2日間は、朝の集合も時間通りで大きなトラブルもなく、ひとまず第一関門を突破しました。今後は、私立大学入試や国公立大学の二次試験が控えてますが、体調に気をつけ最後まで乗り切ってほしいと思います。(高3担任 宗)



12月～1月 部活の報告

特活主任 野村哲也

●高校テニス部

冬季テニス選手権予選

男子・シングルス

パート決勝進出 佐藤瑛祐

パート準決勝進出 生野達也・岡義倅

男子・ダブルス

パート準決勝進出 佐藤瑛祐／岡義倅

残念ながら目標の本大会進出はなりませんでしたが、個々の成長の跡がみえてきました。テニスの技術・結果の面だけではなく、挨拶や集団行動まで含めてより一層の成長できるよう、今後努力していきたいと思えます。(顧問：川元)

女子・ダブルス

松田流華・衛藤美季ペア 1回戦敗退

前半リードしていましたが、一気に流れを持っていかれてしまいました。今回の反省を次に活かして行ってほしいです。

(顧問：坂井)

●高校女子バスケ部

九州大会大分県予選

1回戦 岩田 40-46 別府鶴見丘

最大13点差つけられるものの、気持ちを切らさずDFを頑張り差を詰めました。ただミスが響き、あと一步及ばず。悔しい思いを忘れずに、意識の高い練習を継続できれば、結果がついてくると思います。頑張るメンバーなので更に頑張ってくれると期待しています。(顧問：野田)

●高校女子バレー部

秋季総合選手権

1回戦 岩田 0-2 大分ヤング

前回の試合より守備・攻撃ともにレベルアップしていましたが、力及ばず敗れてしまいました。高校生はこの試合で引退になります。今まで支えてくださった全ての方に感謝です。(顧問：中川)

●高校ラグビー部

県新人戦(11人制) 予選リーグ

岩田 20-17 合同B(大商・大分西)

岩田 12-10 昭和学園

岩田 54-0 海洋科学

岩田 7-19 佐伯鶴城

勝ち負け同数(3勝1敗)のチームが3

つ巴の混戦となりましたが、トライ数の差で3位となり、惜しくも決勝トーナメント進出はなりません。多くの保護者、生徒、OBの応援を受け、選手達は堂々たる戦いを見せてくれました。

この大会をもって、本校ラグビー部は活動を終了します。創部以来23年間の長きに渡り、サポートしていただいた全ての方々に御礼申し上げます。ありがとうございます。(顧問：立川)

●女子サッカー部

大分県女子フットサルリーグ

(ビギナーズ) **優勝**

予選リーグ

岩田 3-0 別府短期大学

岩田 1-0 L'sフットサルS

岩田 0-0 大分大学

決勝戦 岩田 1-0 大分大学

攻守ともに走り抜き全力を尽くしました。若さとチャレンジ精神そしてチームワークのプレーから素晴らしい結果が生まれました。今後も更なる躍進にむけて練習を頑張ります。(顧問：河野)

伝統の絆OB会

バスケットボール部OB会

12月29日、毎年恒例のOB・OG戦が行われました。高校卒業したての23回生から、オールドOB(10回生?)までのたくさんのOB・OGが参加、試合は白熱しました。現役vsOB・OG戦では、男女とも、若くはないのに、軽快な動きを魅せたOB・OGが勝利!息は大きくあがっていました(ˊˋ;)

試合後、体育館・周辺・女子更衣室・部室などを全員で清掃し、2011年の活動を終わりました。かけつけ、アドバイスや差し入れまでしてくれるOB・OG達に心から感謝し、2012年は支えてくれる方々に応える組織として、活動していきます。



サッカー部OB会

1月3日(火)毎年の恒例行事となっている、OB・OGを交えての新春初蹴り大会を行いました。今年は総勢で90人を超える人数が集まり、とても賑やかな

初蹴りとなりました。中学3年生～高校2年生までをAチームとBチームに分けて、OBのAチーム(本気モード)とBチーム(エンジョイモード)との対戦を繰り返しました。また平行して、中学1年生と中学2年生、そして女子部員とOGのメンバーでフットサルのゲームを行いました。みんなコートの外では終始笑顔でしたが、試合でコートに入ると真剣な顔に変わっていました。今年、岩田サッカー部史上最強だったと言われている13回生のOBが多く集まってくれました。アラサーとなって、身体が動かなくなったり体型自体も変わってしまった人もいましたが、さすが見事なゲーム感覚でOBチームを引っ張っていました。昼過ぎまで試合を楽しんだ後、全員で校内の清掃を行って終わりました。

テニス部OB会

12月28日(水)にOB・OG戦を実施しました。私が今年から顧問となったこともあり、23回生に協力してもらいました。年末の忙しい中ですが、男子は園田・安部の2名、女子は西郷・佐藤・小宅の3名の計5名が駆けつけてくれました。現役の中学・高校部員とミックスダブルスを中心に試合をして親睦を深め、最後は現役高校部員と1セットマッチの真剣勝負を行いました。卒業生ならではの優しさや厳しさにあふれたアドバイスもあ

り、今後もこれを継続し、少しずつ規模も拡大していきたいと思えます。最後になりますが、今回参加してくれた23回生に大変感謝しています。



ラグビー部OB会

12月30日(金)に、2年ぶりのOB戦を行いました。20人ほど集まったOBの皆さんに、ゲーム(10人制)で胸を貸したり、ベンチから熱い観戦をしていただきました。奥さんや子どもを連れてきたOBもいて、20年以上経った部の歴史を感じました。保護者の皆さんの炊き出しで、試合後の空腹と寒さが満たされました。最後は、いろんな意味で恒例となった記念写真を撮りました。



27回生WYSHプロジェクト

養護教諭 野村めぐみ

2学期末に27回生(中3)のWYSH授業が実施されました。

担当者: 中川先生(3の2担任)

テーマ: 「人とのつながり・人への思いやり」

2時間続けての授業では、まず始めに理科の先生らしく、動物の変わった子育て・共生について知るとい導入から始まりました。その後、自分たちはどうなのかということでもまず1時間目に身体の学習(科学的知識)としてエイズ・性感染症・中絶について学びました。

2時間目は心の学習としてグループワークを行い、「どうしたら望まない妊娠や性感染症を防ぐことができるか。」「クラスの中に元気がない友人がいたらどうするか。」をグループ毎に話し合い・発表しました。

最後にコブクロの「WHITE DAYS」の曲にのせて学年の先生方のメッセージビデオを流して終了という授業の流れでした。

グループワークではどのクラスも男女差・個人差を感じる意見があり、皆真剣に授業に取り組んでいました。思いやりを持って周囲の人へ接することの大切さを学ぶ機会になったのではと感じていま

す。一部ではありますが、お子様たちの授業後の感想を掲載させていただきます。

●本当に「幸せ」が訪れる前に遊び半分でした事によって「幸せ」が訪れない事もあるんだなあと思いました。大人への階段を3歩ぐらいのぼった気がします。自分にとってとても意味のある2時間でした。

●エイズの事など知らないことだらけだったけど、今もこの先も大事な事だったので驚きました。今日した事のほとんどが相手への思いやりについての事が多かったので、それが大切な事だと思いました。最後の映像を見て思い出すことがいっぱいあってとても感動しました。

●今回の授業を受けて性感染症がとても怖いものだという事を知りました。しかし、将来、結婚して赤ちゃんを産むにあたって、絶対に知っておかなくてはならない知識だと思います。また、今回、自分は性感染症についても、性行為についても全く知らないのだと気づきました。これまで母と性について話したことがなかったので、今日の授業を機会に家に帰ったらきちん

と母と話し合ってみたいと思います。

●性の病気についてあまり興味がなかったし自分には関係ないと思っていただけ、実は若い頃には非常にかかりやすいんだということに初めて気づきました。また、今回のテーマであった人とのつながり、人との思いやりは班の仲間とやりとりを通じて改めて思ったし、これらはこれからも大事にしていこうと思いました。



ほけんしつから

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。3学期が始まり、保健室は冬休みの出来事を聞いて欲しいお子さんと賑わったり、受験生が疲れのために来室したりする光景が多くみられました。

現在、岩田学園では感染性胃腸炎が流行しています。吐き気・嘔吐・腹痛・発熱などの症状のお子様が来室するケースが多くみられます。ご家庭での健康観察をお願いすると共に、症状がみられた場合は早急に

病院受診することをおすすめ致します。感染性胃腸炎は出席停止扱いとなりますので、必ず学校へのご連絡をよろしくお願い致します。

もあります。岩田学園では今のところ数名の罹患者がいる状況です。手洗い・うがい・マスクの着用など予防に努めて頂きたいと思います。



APU立命館コースの高1・高2が英語で『岩田生プレゼン大会(後期)』を行う。

APU講座の後期の集大成として、『岩田生プレゼン大会(後期)』を、1月18日(水)に本校大講義室で行いました。10月より各学年4~6名のグループに分かれ、テーマを設定し、TA(APU学生=Teaching Assistant)の指導を受けながら、調べ学習・発表のための資料作りなどを行ってきました。

参加した本校職員・保護者・国際学生・APU職員約80名を前に、今回はこのコースの特徴である語学力を活かして、各研究発表をすべて英語で行いました。

審査をされたAPU教授の渡部郁之助先生は「どの身近なテーマを見つけ、よく調

べていたが、プレゼンをする際には原稿を棒読みでなく、聞いている人たちをもっと引きつけられるような話し方の練習をしてもらいたい。」とアドバイスを頂きました。さらなる飛躍をめざして来年のプレゼン大会に向けてがんばってください。

最優秀:

高2『Star Bucks』(TA:Abedin Nuren)
上尾裕美子, 小関有結, 神品英夢, クララ

高1『Sea turtles' tears』(TA:首藤 萌)
江藤創平, 緒方征弘, 講武ちひろ
古屋星花, 佐藤友絵, 佐藤祐輔





カウンセラールームより

スクールカウンセラー 江藤行大

みなさん、お元気ですか？

スクールカウンセラーの江藤行大（エトウ タカヒロ）です。

新しい一年が始まってもう三週間ほどが過ぎました。

その時間の中で高校三年生のみなさんは、センター試験という一つの大きな山を乗り越えて、また新しい目標に向かっていて、またほかの学年のみなさんも今学年の締め括りに向けて勉強に部活動にと一生懸命毎日を過ごしていることと思います。

カウンセラールームに向かう途中でみなさんのそんな真剣な横顔を見るたびに、ぼくは心の中でいっぱい声を出して応援しています。

どうぞこの何ものにも変えられない時間を大切にしてくださいね。

さて、今回のカウンセラー通信では、“人と会うことがいやな時の対処法のヒント”についてお話してみようと思います。

毎日生活をしていると、時に『ああ、今日は誰にも会いたくないなあ。』とか『なんとなく外に出たくないなあ。』なんて思うてしまうことがあります。そんな気持ちがいっぱいになるとそれまで当たり前に出ていたことすらも億劫になってしまったり、時にはそんな風にしてしまう自分が嫌になったりするという人もいますかもしれません。

だけでもそれは、特別な人だけが抱く感情ではなくて、実は、多くの人だれでも感じるありふれた感情でもあります。

多くの方は、そうした感情を感じながらも毎日の生活の中で様々な活動をしているうちに、少しずつ発散していつのまにかそう感じる事が小さくなったり、時には感じたことすらも、エピソードの積み重ねの中で忘れてしまったりします。

こうしたストレスへの対処能力のことを心理学ではコーピングとって、人間にそれぞれ備わっているとても大切な力なのです。ぼくたち人間はこのコーピング能力を持っているからこそ、嫌なこともつらいことも少しずつ乗り越えていくことが出来るのです。

そう考えると、ドラえものの主人公である野比のび太君は、学校の教室の中で、放課後の野球チームジャイアンズでと、たくさんの失敗を繰り返して落ち込んだりもす

るけれど、それでも毎日楽しく過ごしているのは、こうしたストレスコーピングに非常に長けた

“ココロの強い”少年といえるのかもしれませんが。

最近の研究では、この本来みんなが持っているはずのコーピング能力は、個人差があったり、その時と場所や環境によって変化してくるということがわかってきました。

女性心理学者のセイモア・フィッシャーは、このその時、その時で変わってくる“傷つきやすさ”には、『身体境界像の認識の差』が影響していると述べています。

フィッシャーは、“傷つきやすさ”について、『はっきりとした身体境界をもたない人はあまりに無防備である。』といい、つまりこれを持っていない人はダンボールの鎧を着て、戦いに向かうようなものだということです。これは文字通り“カラダのボディイメージ”を意味するものですが、単に“体のラインの認識”だけではなく、『自己の同一性の確立』という意味ももっています。

この少し難しい『自己同一性』という言葉の持っている意味は、“自分が何者で、他者とはどうちがうのか”ということをも自分自身がしっかりと知っているということです。

これは、自分が何が得意で、何を苦手に行っているのかをきちんとまっすぐに見ることが出来るのかということでもあります。つまり英語でいうこのIdentityを獲得して初めて、自分の本当の課題は何で、またどうすれば自分の長所がもっと伸ばせるのかということをも自分自身が気づいて対処できるということです。

じゃあ、具体的にはどうしたらいいのでしょうか？

それは、朝目を覚ました後、顔を洗ってしっかりと鏡でまっすぐ自分の顔を見ること。そして自分自身に微笑みかけることです。単純で毎日繰り返している当たり前のことのように感じるかもしれませんが、それが本当の今の自分を知って、自分自身を認めるという大切な第一歩かもしれません。

だけでも、たくさん傷ついたりと感じたときには、自分自身の弱さに直面するのが怖くて仕方なかったり、『見たつもり』になってしまうこともあるかもしれません。そんなときには、あなたのことを心から思っている家族や先生、そして心許せる友達に今の本当の自分を伝えてみてはいかがですか？

自分から見る自分よりも、外から見た自分の方がずっと素敵に思えることのあるものです。

そしてそれを知ることがもう一度迷っている自分に大きな力をくれるのかもしれませんが。

もしもそんな相手を見つけ出しにくいと思ったときには、カウンセラールームにお話に来てみませんか？ みなさんが自分自身を見つめるときに心細いときには一緒に鏡をのぞきましょう。

毎週水曜日の午前9時から午後6時までのび太君の帰りを待っているドラえもんのようにカウンセラールームでみなさんが遊びにやってくるのをいつでも待っています。

（カウンセラー出校日は、変更になる場合があります。カウンセリング希望の方は、担任の先生に確認してくださいね。）

PS

そうそう、先ほどお話したドラえもんの最終回のお話をみなさんは知っていますか？ ぼくが大学生の頃、こんな話が伝わってきました。

いつものように学校からのび太君が帰ると、そこにはまったく動かなくなったドラえもんがいました。再起動してしまうと今までのドラえもんの記憶はまったく消去されてしまうと知ったのび太君は自分自身で壊れてしまったドラえもんを直すために科学者を志したというのです。そして何十年の時間がたった後、白髪のにび太君が奥さんになった静香ちゃんとスイッチを入れると、「のび太君、宿題はもう終わったのかい？」という懐かしいドラえもんの声が聞こえたというのです。

ぼくはこのお話を聞いてから、どんな人間でも本当に願えば、なりたい自分にちゃんとなれるんだということを学んで、今でもそう強く思っています。



生徒指導部より

生徒指導主任 楠田克彦

12月に列車補導を行いました。これは大分地区の各高等学校の生徒指導部が行っています。今回は定期考査中（2学期期末考査）の12月5日、大分別府間でした。他校も定期考査中のようで高校生で満員でした。本校の生徒も含め、乗車態度は良好でした。多くの高校生（一般の人も）は携帯電話でメール、イヤホンで音楽、ゲーム？などをしており、静かでした。以下に携帯電話の校内規定を掲載します。

携帯電話使用に係る校内規定



1. 登下校時の携帯電話の使用許可

校内へ携帯電話を持参することは原則禁止です。

しかし、次の規則・指導の下、必要だと認められる生徒については、登下校時の携帯電話使用（校内持ち込み）を認めます。

2. 規則

- ①これまで通り校内での使用は厳に禁止する。
- ②校内に入る前に電源を切る。校内ではカバンまたはロッカーの中に入れておくこと（保管に注意）。
- ③登下校時の使用上の注意
 - ・緊急かつ必要不可欠なものだけにする。
 - ・公共の交通機関（列車やバス）では使用しない（他の乗客や心臓ペースメーカーを使っている人たちへの配慮）。
 - ・駅、バス停、コンビニなどで、周りの人からひんしゅくを買うような使い方は厳に慎む。
 - ・歩きながらや、自転車に乗っての使用は危険なので行わない。

など、他の人に迷惑をかけないように使用する。

④考査中の注意事項

考査中に、携帯電話を身につけていたり、カバンの中に入れていた携帯電話を鳴らした場合には、不正行為となることがある。

⑤休日の校内・他校（部活動等での活動中）での使用禁止

休日であっても、校内では使用してはいけない。
また、部活動などで、他校にいる場合も使用してはいけない。

3. 指導

○使用許可を受けている者

校内で使用したり、着信音が鳴ったり、カバンやロッカーから出していた場合は、これまで通り、次のような指導を行う。

- 1回目⇒担任が保護者・指導部に連絡の上、1週間担任が預かり、反省させた後返却。
- 2回目⇒保護者召還（生徒指導主任および担任同席）の上、解約。

○使用許可を受けていない者

・校内で使用したり、着信音が鳴ったり、カバンやロッカーから出していた場合は、次のような指導を行う。

- 1回目⇒保護者召還（生徒指導主任および担任同席）の上、解約。
- ・登下校時に使用していた場合
その場で、携帯電話を没収。保護者召還の上、生徒指導主任嚴重注意を行う。携帯電話は解約。

4. 保護者の方へ

次の事項を守るようお願いいたします。

- ①学校の規則・指導を十分に理解し、保護者として生徒と十分に話し合い、規則を遵守するように指導し、監督を行うこと。

②マナー指導を行うこと。

③1ヶ月の使用料金を常にチェックし、適正な使用状態と思えないときは、本人と話し合うこと。

④生徒への電話連絡はこれまで通り学校を通して行うこと。

その他

- ・「許可願い」を受けたあと、担任の先生は保護者に連絡を取り、許可願いが出ていることを必ず確認します。
- ・指導の過程で、携帯電話を解約した生徒については、許可を取り消し、その年度は許可しません。

次年度以降、再申請を行うことができますが、生活態度等を考慮した結果、不許可または許可を延期する場合があります。

- ・生徒の安全のため、携帯電話の契約時に必ず**フィルタリング**をかけてください。また、契約後、絶対にフィルタリングを外さないようにしてください。



寒くなって参りました。いよいよ受験シーズンの到来です。高3のみなさん！体調管理をしっかりと、絶好調で受験してください！応援してますよ。

寄付金募集のお知らせ

学校法人岩田学園



学校法人岩田学園 岩田中学校・高等学校は、明治33年(1900年)岩田英子先生が荷揚町に「大分裁縫伝習所」を創立したことから始まりました。その後、昭和59年3月に女子校としての幕を閉じるまでの間、約四万人の卒業生を輩出し、県下女子教育の一助として学園の使命を果たしてまいりました。

昭和50年に故岩田英二が理事長に就任し、時代のもつ「教育」と「私学の役割」を考え『学校の組み替え』にとりかかりました。その結果、「学びたいものが広く集まる学校」であり、「自学自習」を基本とし、「個性を尊重し、自分で考え、自分のことばで語れる、創造力豊かな人間の育成」をめざし、昭和58年に県下初である中高一貫6年制男子校として「岩田中学校・高等学校」を開校いたしました。

1回生はわずか25名からのスタートでしたが、学園の建学精神にご賛同いただいた多くの皆様方のご支援、ご協力により、22回生まで2,408名(平成23年3月)の卒業生を送り出しております。この間、平成13年度(2000年)には創立100周年を迎え、翌年からは男女共学へと移行していきました。

「社会に有為な人材の育成」の基本方針のもと、多くの卒業生が、医療・法曹・IT・金融・建設・教育・サービス業等々と多岐にわたり活躍しております。特に医療分野では、今後、大分県内の医療の一翼を担って

くれるものと各方面から大きな期待が寄せられています。今後も学力だけではなく、「公正や正義」「人を思いやる心」を持ち、自主的で行動力のある人材を育てて参る所存です。

当学園は、大分市中心部を流れる大分川の河畔にあり、周囲を豊かなクスノキの樹林に囲まれ、校舎・生徒寮などは世界的に著名な建築家である磯崎新氏の設計によるものです。このような教育環境は、生徒の情操・感性に何らかのメッセージを与えていると考えております。この教育環境を生かし更に発展・充実させるためには、理科実験室の整備や実験用機器、図書館の蔵書、教科指導図書、芸術科・体育科・家庭科の備品等の整備充実は欠かせないものです。寄付金の使途といたしましては、生徒が毎日を過ごす学校の教育環境整備費及び学力定着・向上のための教育研究経費といたします。

寄付金の使途

(1)教育研究用の施設設備の整備及び取得費

(2)教育研究に要する経常経費

生徒のみなさんには、充実した教育環境の中で、それぞれの未来に向けて学校生活を送って欲しいと願っております。

何卒、学園の寄付金募集趣旨をご理解いただきまして、ご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

寄付金についてのお問い合わせは事務室までお願いします。

学園だよりもカラーで掲載

HP&ブログをご覧ください。

<http://www.iwata.ed.jp/>

岩田学園総務部広報課

大分市岩田町1-1-1

学校法人岩田学園

電話 097(558)3007

Fax 097(556)8937

Email iwata@iwata.ed.jp



21世紀の有為な人材を育成する

岩田中学校・高等学校